

事例9

利用者プロフィール

氏名：Iさん（81歳／女性）
居住状況：1人暮らし
身体状況：多発脳梗塞、嚥下障害等
親族状況：夫は死亡。異母姉妹がいるが疎遠。



本事業利用のきっかけ

近所の商店から食料品や日用品を購入し、家賃や公共料金も自分でお支払をしていたが、字の読み書きを習うことが出来なかったため、お釣りの確認が十分に行えないでいた。本人は、他人に頼ることを好まない、義理堅く真面目な性格。病院へ入院となった際、滞納等を非常に心配した本人が、担当のケアマネジャーを通じて相談を寄せる。

援助の内容

公共料金は自動引き落としにし、家賃の支払については本人の楽しみでもあったため、入院中は生活支援員が代行したが、退院後は本人に家賃を渡し、自分で大家さんに支払をすることとする。月2回訪問し、生活費を小分けにして渡している。以前は小銭の使い方が分からず、財布の中身をみせて支払をしていたが、千円札の使い方が分かるようになり、小銭が貯まると千円札に両替するなどしている。「ホームヘルパーや生活支援員が訪れるようになったので、冬に備えて炬燵を購入したい」と相談してくるなど、生活にも変化が出ている。

福祉サービス利用援助

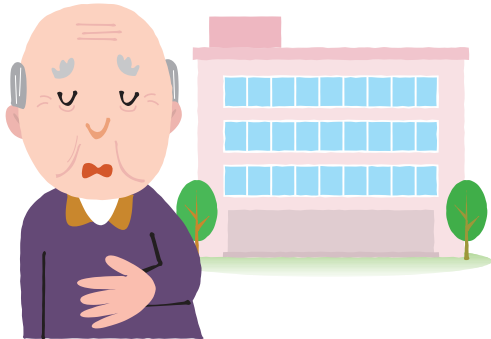
日常的金銭管理サービス

書類等預かりサービス

事例10

利用者プロフィール

氏名：Jさん（89歳／男性）
居住状況：有料老人ホーム入所
身体状況：高血圧症、狭心症等
親族状況：妻亡き後、息子夫婦と一時同居。
その後、息子が病気で倒れ入院中。



本事業利用のきっかけ

息子が入院したことにより嫁が金銭管理をしていたが、預金が知らぬ間に払い戻されていたなど、不審な点が見受けられた。また、本人には多額な預金のある通帳等があったため、緊急措置として施設の貸金庫を利用させてもらっていた状況下で、施設の相談員より連絡が入った。

援助の内容

通帳と印鑑を預かり、月に1回の割合で施設を訪問する。日常的な金銭管理以外の預金通帳等については金融機関の貸金庫を利用し、そこで保管をしている。本人には浪費癖があるため、本人と話し合った結果、簡単な金銭出納帳をつけてもらい、生活支援員が訪問したときに確認するようにした。月1回の支援ではあるが、生活支援員と話をすると気持ちが落ち着くように見受けられる。

福祉サービス利用援助

日常的金銭管理サービス

書類等預かりサービス